

氏名	Aさん	Bさん	Cさん
学科(学部生)	日本文化学科	日本文化学科	日本文化学科
Q1 卒業論文のテーマ	「細長—女性の細長を中心に—」(細長とは、平安時代中期に着用されていた、謎の装束といわれている女性の装束)	「四十八茶百鼠と言われる江戸時代の茶色と鼠色の流行」	「訪問着と付下げの成立過程と格」
Q2 テーマを選んだ理由	中学生のころから装束に興味を持ち始め、服飾文化史を勉強するために本学に進学。(装束に興味をもった当初から「細長=謎の装束」というのが気になっていた)	染織家で人間国宝の志村ふくみさんのエッセイ『一色一生』を読んだことがきっかけ。「江戸後期には茶色と鼠色が大流行し、四十八茶百鼠(四十八種の茶色と百種の鼠色がある)」という言葉が生まれた。また、江戸人はその色のわずかな違いを見分ける美意識があった」という記述を読み、江戸後期にはそれほどまでの色数、またそれに伴う色名があったのかどうか流行の実態に興味を持ち、調査したいと思ったから。	もともと日本文化に興味があり、増田ゼミで和服をテーマに接しているうち、和服の序列や種類がいつ頃成立したのかということに端緒に、「訪問着」と「付下げ」の2つに絞って卒業論文のテーマとした。 (「訪問着」と「付下げ」は柄のつけ方や用いられ方が似ていることから使い分けが難しいとされる) 研究を通して、自分自身「どこに何を着ていくか」ということに考えさせられる事があった。
Q3 作成スケジュール	[3年生] 夏休み前 テーマ決定、下調べ開始 ↓ 秋頃 ゼミ発表 ↓ [4年生] 本格的に史料収集・分析 ↓ 夏休み 史料収集が一段落 ↓ 初秋 新しい史料を発見、読み直し	[3年生] 6月 テーマ決定 ↓ 11月 ゼミ発表(先行研究の調査結果) ↓ [4年生] 6月 一次提出(章立て) ↓ 夏休み 一次史料の読み解き ↓ 9月 執筆 ↓ 10月 研究発表 ↓ 12月 卒業論文提出 ※通年で面談3回あり。	[3年生] 5月頃 仮テーマ決定 ↓ 7月 仮テーマで章立て、先行研究・資料を探し始める ↓ 12月 仮テーマで発表 今後このテーマで続けるか?テーマを変えるか?研究の方針(研究範囲、用いる資料)を決定 ↓ [4年生] 5月 指導教員との面談で進展状況を報告 ↓ 7月 「はじめに」「章立て」の下書き ↓ 10月上旬 本論半分程度(20枚前後)指導教員に提出 ↓ 11月 ほぼ完成した状態で指導教員に提出 ↓ 12月 提出(12月16日付)
Q4 卒業論文の書き方はどこで修得したか	・ゼミ教員より論文の書き方をまとめたプリント配付 ・ゼミで詳細に教授	・ゼミ教員より卒業論文の手引き配付 ・ゼミで詳細に教授 ・先輩方の卒業論文を参考	・ゼミ教員より卒業論文の手引き配付 ・ゼミで詳細に教授 ・図書館のガイダンス ・過去に自分が使った参考資料 ・先輩方の卒業論文
Q5 卒業論文を書くうえで、困難に感じたこと	調べるべきことが多すぎて忘れてしまいがちに ↓ 気になったことはすぐメモをとる、チェックシート式にする、等工夫した。	自分の言葉によってしまう部分があった。 二次史料を参考文献にしていたら、正しくない事が書かれていた場合もあったので、疑い・問う力が必要であると感じた(ゼミの面談や発表を通して、周りからの指摘で気づくことができ、修正等の対応をとった)。	テーマに関する明治から昭和の雑誌や新聞記事に目を通すのが大変だった。 資料の解釈について悩むことも。 近い時代・分野で研究をしている人がいなかったため、誰かと助け合って資料を集めるということもできず。 時間が迫るなか、執筆が行き詰った時が一番つらかった。 ↓ 友人と相談し合ったり、時にはご飯を食べに行ったりと気分転換をはかる。
Q6 卒業論文に取り組むときのポイント	諦めないで取り組む根気	計画をしっかりと立てる(期限から逆算して、具体的な予定を立てて実行できるように励むことで余裕をもって論文執筆に取り組むことができる)。	・早いうちに先行研究を探し出して目を通しておくこと。 ・普段から資料集めに取り組むこと。 ・卒論で使おうと思っている資料の打ち込みは早めに済ませておく。
Q7 参考文献の入手経路	・『平安朝服飾百科事典』『古事類苑』 ・各データベース	・『服飾関連図書目録』 ・OPAC ・Cinii ・国立国会図書館のデータベース	・Cinii ・先行研究が極端に少なかったため、「先行研究が参考にしていない文献」や「参考文献が参考にしていない資料」なども参照。
Q8 Q7で回答された方法を用いることのメリット	ひとつひとつ読んでいく手間を最小限に抑えられるので、時間が有効に使えた。	『服飾関連図書目録』は服飾に関連した先行研究が分野別に分かれて記載されているため、関連するテーマを絞ることができ、調べやすかった。 自宅のパソコンからでもアクセス可能なデータベースは、参考資料の書誌情報をすぐに調べられるので便利。	Ciniiで最初にキーワードや全文検索で論文を探し、あらかじめ検討をつける事が出来る。(先行研究の参考文献をチェックし、芋づる式に関連資料を探索)
Q9 お薦めのデータベースやオンラインジャーナル	東大史料編纂所のデータベース(古典籍の種類が豊富。テーマに関する現代の先行研究は少ないため、Ciniiなどはあまり使わなかった)	—	・近代デジタルライブラリ ・聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞記事) ・毎索(毎日新聞記事) ・ヨミダス歴史館(読売新聞記事)
Q10 失敗(?)をふまえてのアドバイス	もっと早くから本腰を入れて調査をすればよかった。	一次史料を読むことに時間がかかってしまい、深く考察できなかった。章立てをした時点で論文の大体の流れを描いておくとうい。	①卒業論文のバックアップをこまめにする。提出期限の2週間ほど前に、卒業論文のデータが壊れてしまうというハプニングが。バックアップも取っていたはずが取れておらず、結局担当教授に仮提出していたものを見ながら、最初から打ち直し。 ↓ 提出期限が迫ってからは、データを「更新」するのではなく、「新規」で保存していくのがお勧め。保存場所も複数にする。 ②資料の題名・著者・出版年など、註や参考文献に必要なデータは必ず記録しておく。著書名・著者名などの情報をメモし忘れていた。記憶を元に、資料収蔵のセンターに行ってみた所、東日本大震災直後で「棚から資料が落ちてくる可能性がある」ため資料の公開が中止に。後日、メールでセンターに問い合わせ、当該の資料を探し当てる。 ↓ 引用したり参考にしたり利用する資料は、早い段階でワードなどに打ち込んでおくとうい。
Q11 図書館に期待すること	史料が見つからずに困ったときには図書館の果たす役割は非常に大きいと思います。	卒業論文執筆にあたって、説明会をしていただけでは忘れてしまうこともレジュメに記載されていたので、のちに参考にさせていただきました。	専攻ごとに必要となる資料や、調べ方が異なると思うので、各ゼミごとに卒業論文の資料の調べ方などを教えてくださる様な時間が設けられれば良いのではないかと思います。